

I. 第22期（平成22年8月2日～平成23年3月31日）事業報告

第22期第1回理事会（平成22年10月6日開催）、第1回評議員会（平成22年10月21日開催）において、平成22年8月2日から平成23年3月31日に至る第22期の諸事業の実施要領が決定され、それに基づき第22期の事業を以下のとおり実施した。

公益事業1（公1）：医療科学に携わる研究者を育成する事業

1. 研究助成（研究助成選考委員会）定款第4条第6号

第20回研究助成選考委員会

日時：平成23年1月26日（水） 13:00～16:00

場所：医療科学研究所会議室

1) 経過と結果

互選により白神誠評議員を委員長に、池田俊也評議員を副委員長に選任した。続いて応募書類を審査し、選考を行った。研究助成選考委員会では応募64件について、公平かつ慎重に選考を行い、以下の11件を採択した。第22期第2回理事会（平成23年3月2日開催）で承認を経て、採択テーマ決定者に助成金を3月に贈呈した。

2) 採択テーマ

(1) 「造血幹細胞移植を行う患者に対するSF-36/SF-6Dを用いた費用効用分析」

岡村篤夫 神戸大学医学部附属病院 腫瘍・血液内科 助教

(2) 「インターネット上の遺伝医学関連サイトの評価システム」

沼部博直 京都大学大学院医学研究科医療倫理学・遺伝医療学分野 准教授

(3) 「農村圏の二次医療圏における医療供給体制に関する実証的研究—岩手県の県立病院ネットワークの可能性」

栗田但馬 岩手県立大学総合政策学部 准教授

(4) 「臨床試験におけるプロジェクトマネジメントの日米比較研究」

須崎友紀 大分大学医学部附属病院総合臨床研究センター 助教

(5) 「就労者の発達障害傾向及びアタッチメントスタイルとメンタルヘルス」

上床輝久 京都大学保健管理センター 助教

(6) 「費用効果分析における生産性費用の取り扱いに関する研究」

白岩健 立命館大学総合理工学院 助教

(7) 「東京都23区における孤独死の社会疫学的分析に関する研究」

金涌佳雅 防衛医科大学校法医学講座 助教

(8) 「投薬ミス防止を目指した医薬品名および外観類似度評価システムの構築」

玉木啓文 東京大学大学院薬学系研究科医薬品情報学講座 博士課程

(9) 「離島における実現可能な看取りモデルの構築—限りある資源と費用対効果の視点から」

堀越直子 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻 大学院生

(10) 「クリティカルケア領域で働く看護師の専門性と患者アウトカムおよび医療費との関連の検討」

澤野真澄 順天堂大学大学院医療看護学研究所 大学院生

(11) 「在宅介護継続を支えるコミュニティ環境要因についての研究：日米実態調査」

涌井智子 ジョンスホプキンス大学 研究員

3) 募集・応募状況

第20回（平成22年度）研究助成募集は、10月1日に全国の大学などの研究組織（265の大学の文科学部及び大学院、医学系・歯学系・看護学系・薬学系・福祉系大学の学部

及び大学院、35の研究所・研究センター)にポスターを送付し案内した。同時にホームページで募集案内するとともにメディアにリリースした。12月4日に募集を締め切り、64件の応募を受け付けた。

2. 研究会（自主研究委員会） 定款第4条第8号

1) 医療経済研究会

第22期は、財団研究（自主研究）、研究員の研究成果の発表を中心に開催した。報告した研究発表は以下の通りである。

(1) 平成22年09月27日（座長：橋本英樹評議員）

「患者調査データとDPCデータを用いた入院患者の病院選択行動に影響を与える要因に関する研究」
東京医科歯科大学教授 伏見清秀

(2) 平成22年10月25日（座長：中村洋評議員）

「新薬の普及と薬剤選択パターン—合成抗菌剤市場を中心として」 研究員 高橋秀直

(3) 平成22年11月29日（座長：田中滋評議員）

「政策アクターとしての患者団体～患者団体の「参加の制度」分析のための予備的考察」
研究員 石垣千秋

(4) 平成23年01月31日（座長：池田俊也評議員）

「DPCデータを用いた、循環器疾患入院患者の向精神薬処方に関する分析」
研究員 清水沙友里

(5) 平成23年02月28日（座長：村嶋幸代評議員）

「乳がん患者のインターネット利用がソーシャルサポートに与える影響」
研究員 瀬戸山陽子

(6) 平成23年03月28日（座長：姉川知史評議員）

“Financial Burden Faced By High-Cost Patients in Japan: Work, Income, and Medical Expenses for Chronic Myelogenous Leukaemia Patients”
富山大学准教授 両角良子

3. 研究者支援（研究員採用委員会） 定款第4条第6号

1) 研究員採用委員会

(1) 第1回研究員採用委員会

日時：平成22年11月11日（木） 10:00～11:30

場所：医療科学研究所会議室

経過：規程により嶋口充輝研究所長が委員長に就任し、互選により姉川知史評議員を副委員長に選出し、以下の事項を審議した。

審議事項：

①研究者支援事業の現状と課題

研究員の研究成果のレビューを行うことで事業の課題に対応する。

②平成23年度研究員採用について

募集要項、選考方法が決定された。

(2) 第2回研究員採用委員会

日時：平成23年2月22日（火） 10:00～12:00

場所：医療科学研究所会議室

経過：平成 23 年度研究員募集者 16 名について書類選考を行い、4 名を第一次合格者とした。

(3) 第 3 回研究員採用委員会

日時：平成 23 年 3 月 31 日（火） 10:00～12:30

場所：医療科学研究所会議室

経過：4 名の第一次合格者の面接を行い、中本龍市、千葉理恵の採用を決定した。

*研究員の就職

高橋秀直研究員が北九州市立大学、清水沙友里研究員が医療経済研究機構に就職した。

2) 研究員研究会

研究員採用委員会の委員が中心となり、研究員研究会で発表者の指導に当たった。

(1) 平成 22 年 10 月 12 日

「新薬の普及と薬剤選択パターン—合成抗菌剤市場を中心として」 研究員 高橋秀直

(2) 平成 22 年 11 月 12 日

「政策アクターとしての患者団体～アンケート調査～」 研究員 石垣千秋

(3) 平成 23 年 1 月 21 日

「DPC データを用いた、循環器疾患入院患者の向精神薬処方に関する分析」
研究員 清水沙友里

(4) 平成 23 年 2 月 14 日

「乳がん患者のインターネット利用がソーシャルサポートに与える影響」
研究員 瀬戸山陽子

(5) 平成 23 年 3 月 28 日 「平成 22 年度業績報告」

全研究員

3) 研究員研究成果概要

第 22 期の研究計画と研究成果は以下の通りである。

(1) 石垣千秋研究員

① 研究計画と成果の概要

a. 「医療政策における国民・患者の参加に関する国際比較研究：日本と英国の患者団体の活動（Phase 2：患者団体の活動に関する他のアクターの動向）」

計画概要：平成 21 年度に引き続き、患者団体の活動に関する研究を遂行する。前年度に取り扱った事例、アンケート調査の結果をもとに、事例研究を深化させる。具体的には、患者団体の関係者、その他行政府（官僚）、政治家、専門職団体、企業等の役割について、文献及びインタビュー調査により、事例の裏付けをすると共に、各アクターが患者団体の活動をどのように評価しているかを明らかにする。これらにより、日本の医療政策において、患者団体はどのような政治的状況で、政策に関わり、何を実現してきたかが明らかにされる予定である。

成果概要：平成 21 年度に引き続き、患者団体の活動に関する研究を遂行する。前年度に取り扱った事例、アンケート調査の結果をもとに分析を進めた。成果は研究論文に取りまとめ、『医療と社会』投稿中である。

年度初めの予定では、インタビュー調査を重ねていく予定であったが、研究会で提示された様々なご意見を踏まえ、視点やアプローチ、対象事例を再度検討しており、事例の深化は翌年度の課題として進めていく予定である。

②研究論文

- a. 「英国ブレア政権下における医療専門職規制の『近代化』：規制主体の変化を中心に」
『医療と社会』Vol. 20, No. 3, 2010年
概要：英国福祉国家の国民保健サービス（NHS）の1990年代後半から2000年代初頭の医療スキャンダルに対する政治過程を追跡することにより、ブレア政権が進めた「近代化」政策の一環としての医療専門職の近代化、国家と専門職団体の関係の変容について明らかにした。また、医療政策の変容を捉えることにより、福祉国家の変容の一側面としての規制主体の変化について明らかにした。

③ 研究報告

- a. 「政策アクターとしての患者団体：患者団体の「参加の制度」分析のための予備的考察」
平成22年11月29日 第7回医療経済研究会 於：医療科学研究所

④ 研究会参加

- a. 医療経済研究会（平成22年9月27日、10月25日、11月29日、平成23年1月31日、2月28日、3月28日）
医療科学研究所
- b. 先進諸国の経済政策形成における専門性の役割：デモクラシーとの『相克』と『和解』
「政策形成における専門性の役割」研究報告会（第12-13回：10月8日、11月13日）
東京大学総合文化研究科
- c. 医療科学研究所 第20回シンポジウム（平成22年10月22日）
医療科学研究所
- d. 関連社会研究会「『政党間移動と政党システム』をめぐって」（平成22年12月11日）
東京大学総合文化研究科

(2) 高橋秀直研究員 研究成果概要

① 研究計画と成果の概要

- a. 「製薬企業の業績格差発生メカニズム」

計画概要：前年度に行った高業績発生メカニズムの探究を発展させ、同時期に同程度の売上規模や収益水準であった企業のマッチングペア分析を行うことで、業績格差が発生するメカニズムを探求する。その際には、分析対象企業だけでなく、競合他社の動的な相互作用を考慮しながら、企業の成長性や収益性のメカニズムを明らかにすることが最も重要な目的である。また、そのような競争プロセスに着目することで、企業の行動と産業発展に関して大きな知見が得られると考えられる。

成果概要：企業間で長期的な業績の違いが生じるメカニズムはどのようなものか？という問題意識のもと、複数企業による研究開発や製品市場での活動を通じて展開される競争のプロセスに注目しながら、企業間で業績格差が発生するメカニズムについて検討する研究である。基本的に本研究では、同時期に同程度の売上規模や収益水準であった企業のマッチングペア分析を行うことで、業績格差が発生するメカニズムを探求する計画であった。

この比較対象企業を抽出する目的で、製薬企業について 30 年間の売上高と収益性について分析を行った。この結果は、『一橋研究』に論文として掲載されている。

この分析を通じて、小野薬品工業と持田製薬、富山化学工業と第一製薬、武田薬品工業と藤沢薬品工業の 3 つの組み合わせで分析を行っている段階である。

b. 「薬剤選択のパターンの形成が産業発展に及ぼす影響」

計画概要：本研究は、医師や薬剤師といった医薬品のユーザー側に着目し、ユーザー側の行動が企業や産業に及ぼす影響、逆に企業がユーザー側の行動に及ぼす影響といった相互作用を分析し、考察することが目的である。医薬品は多数存在するものの、その使用については特定の医薬品に偏る傾向がある。その背後に、薬剤選択あるいは投薬に関するパターンが形成されているとすれば、そのようなパターンが形成され、変容していくプロセスを詳細に追うことで、ユーザーと企業の相互作用を通じた産業発展に関する知見が得られると考えられる。

成果概要：テーマ変更「顧客側で形成される社会的な制度が産業に及ぼす影響」

医師や薬剤師といった医薬品のユーザー側に着目し、ユーザー側の行動が企業や産業に及ぼす影響はどのようなものか？ という問題意識のもと、製品の選択や使用に関して、顧客が学習し、ルーティン化される。ある特定のルーティンが顧客側で普及することで制度化されていくとするならば、そのような制度形成のプロセスと制度が企業や産業に及ぼす影響を検討する研究である。

制度形成については、日本の抗菌薬市場を用いて、医学系・薬学系論文、医薬品に関する書籍、治療に関する書籍の経時的な分析、抗菌薬使用のガイドラインの形成に関する分析を行った。また、抗菌薬市場での薬剤選択に関する制度と、市場集中度の高い構造に関する分析や、そのような集中的な市場で新薬が普及した事例の分析を行った。

このような分析の結果は、6 月の組織学会研究発表大会と 10 月の医療経済研究会で口頭発表している。現在、論文化に向けて、事例の整理と追加的な調査（とりわけ、顧客側の情報の調査）を行っている。

②研究論文

a. 「企業の外部資源利用に関する分析法：医薬品産業への応用」

平成 23 年 1 月 26 日『医療と社会』投稿

概要：本稿の目的は、企業分析や戦略分析のための手法を提供することにある。とりわけ、企業の外部資源の利用に関する考察のためのものである。アウトソーシングや戦略的提携など、企業の外部資源を利用した競争優位の確立が議論されている。しかしながら、企業の外部資源の利用の程度やその効果についての実証的な研究は少ないと思われる。

そのような実証研究に向けて、本稿では、数量と売上 2 つのデータを用いることから出発して、外部資源の利用に関する分析を行う。本稿の手法や各数値を用いることによって、企業の外部資源の利用や組織間関係、それに伴う企業の変化といった実態をより審らかにすることが可能になり、この分野での議論に様々な貢献をすることになると考えられる。

b. 「日本製薬企業の長期利益」

『一橋研究』第 35 巻第 3 号, 29–50 頁, 2010 年

概要：本稿は、日本の製薬企業の収益性について、1976 年から 2005 年までの 30 年間のデータを用いて考察することが目的である。

本稿の分析を前提とした場合、30 年間に於いて実質営業利益額は増加したものの、収益性は低下した。つまり、実質営業利益額以上に売上高が増加したことが示唆され、利益なき拡大が製薬企業にも発生していたと考えられる。

③ 研究報告

- a. 「新薬の普及と薬剤選択のパターン：合成抗菌剤市場を中心として」

平成 22 年 10 月 25 日 第 6 回医療経済研究会 於：医療科学研究所

④ 研究会参加

- a. 医療経済研究会（平成 22 年 9 月 27 日, 10 月 25 日, 11 月 29 日, 平成 23 年 1 月 31 日, 2 月 28 日, 3 月 28 日）

医療科学研究所

- b. 医療科学研究所 第 20 回シンポジウム（平成 22 年 10 月 22 日）

医療科学研究所

- c. 三菱コンファレンス（平成 22 年 8 月 28～30 日）

三菱 UFJ 国際財団 於：IPC 生産性国際交流センター

- d. 一橋大学大学院商学研究科グローバル COE プログラム

若手研究者報告会（平成 23 年 3 月 10～11 日）

於：一橋大学佐野書院

(3) 瀬戸山陽子研究員 研究成果概要

① 研究計画と成果の概要

- a. 「健康・医療の消費者を対象とした、ヘルスリテラシー尺度の開発」

計画概要：本研究は、健康・医療の消費者を対象として、従来の clinical setting における限定された情報理解能力ではなく、Nutbeam がヘルスプロモーション活動のアウトカムとして提唱しているより包括的なヘルスリテラシーについて、概念の同定と尺度開発を行う。

Nutbeam D (2000) “Health Literacy as a Public Health Goal: A Challenge for Contemporary Health Education and Communication Strategies into the 21st Century,” *Health Promotion International*. 15: 259-267.

成果概要：テーマ変更「乳がん患者の情報源利用とソーシャルサポート及び QOL の関係」
2010 年 6 月に研究計画を提出した当初は、2012 年 3 月にかけて、医療消費者である患者が情報を使いこなす能力であるヘルスリテラシーについて、概念の同定と尺度開発を行う予定であった。しかし、情報を使う能力を同定してその能力の向上を目指すより、現状で効果的な情報利用をしている人々の情報利用の在り方に着眼することのほうが、短期で実践的な示唆が得られるものと考え、研究計画の変更を行った。具体的には、情報利用の盛んな乳がん患者を対象に、どのような情報源利用が患者のソーシャルサポートを最大にするのかという研究課題を明らかにすることを目指す。

2010 年 9 月から、本調査の前段階として、外来通院中の乳がん患者 9 名を対象に、予備的インタビュー調査を行った。その結果、患者がインターネット利用を通じて得ているサポートは、サポートの中身とサポート源との関係性に分類され、前者のサポートの中身は、従来のソーシャルサポート理論で言われるサポートと類似しているが、他方で、後者のサポート源との関係性は、従来の対面のサポート源とは異なるのではないかという仮説が生成された。また、そのインターネットに特徴的なサポート源との関係性が、サポート

の多寡に影響を及ぼす可能性も示唆された。現在この仮説を量的データにより検証するために本調査の準備を行っている。

②研究論文

a. 「国内における、乳がん患者の情報利用にまつわる文献レビュー」

平成22年12月31日『医療と社会』投稿

概要：・目的：国内における乳がん患者の情報利用の実態や、情報を利用することにおける困難を示し、患者のより良い情報利用を阻害している要因やそれを推進する支援のための示唆を得ること

・方法：医中誌(1983-2010年)、CiNii、Medline(1948-2010年)、CINAHL(1982-2010年)の検索エンジンを用いた。検索語は、日本語「乳がん」AND「患者」AND「情報」、であり、英語では、“breast cancer” AND “patient” AND “information” AND “Japan”とした。

・結果：該当論文は31件であった。論文の内容は、患者の情報ニーズが示されているもの9件、情報利用に関する困難が示されているもの12件、利用情報源が示されているもの21件、臨床現場での医療者による情報提供に触れているもの6件であった。情報利用に関する困難には、患者の情報収集、理解・評価、意思決定という一連の情報利用プロセスの各段階において、情報不足や知識の不足、一般論で判断できないこと、さらに、多くの情報を得ることで返って混乱してしまう状況が示されていた。また、臨床現場での医療者による情報提供では、その提供内容や提供手段にばらつきがみられた。

・結論：情報収集段階では、情報そのものの不足と、臨床現場における情報提供のばらつきが困難の要因と考えられた。また、理解・評価段階では、情報支援を行うサポートの不足と患者自身の能力不足、意思決定への利用段階では、個別的な情報の不足が、困難の要因と考えられた。

b. “Comparing support to breast cancer patients from online communities and face-to-face support groups”

Patient Education and Counseling, inpress.

概要：Objective of this study is to compare support from online communities and face-to-face support groups to Japanese breast cancer patients. We conducted a cross-sectional convenience sample online survey of 220 participants in online communities and a postal survey of 1,019 in face-to-face support groups. Factor analysis indicated five main aspects to support received from both online communities and face-to-face support groups: “Emotional support/Helper-therapy,” “Emotional expression,” “Conflict,” “Advice,” and “Insight/Universality.” However, the scores for “Emotional expression” and “Advice” were significantly higher for online communities. Online communities are beneficial support resources that are different in character from traditional face-to-face support groups.

c. “The Benefits of Peer Support in Online Japanese Breast Cancer Communities: The differences between lurkers and posters”

Journal of Medical Internet Research 投稿中

概要：Objective: We explored an online breast cancer support community to determine

the differences between lurkers and posters in terms of received peer support. Methods: Of the 12 breast cancer communities we found, the administrators of four online communities allowed us to administer the survey to their members. Of the 465 people who accessed the questionnaire, 253 completed the survey. One hundred and thirteen respondents (51.4%) were lurkers. Results: There was no significant difference between lurkers and posters concerning socio-demographic variables. About half of the posters were less than one year since the diagnosis of breast cancer, which was significantly shorter than that of lurkers ($P = .02$). The five support functions extracted by factor analysis were the same between posters and lurkers. The five functions were “Emotional support/Helper therapy,” “Emotional expression,” “Conflict,” “Advice,” and “Insight/Universality.” When the support scores were calculated, “Insight/Universality” scored highest for both posters and lurkers. Among the five support scores, “Emotional support/Helper therapy” ($P < .001$) and “Emotional expression” ($P < .001$) scored significantly higher among posters. “Emotional support/Helper therapy” ($r = -.477, P < .001$) and “Advice” ($r = -.399, P < .001$) were negatively correlated with the anxiety sub-scale for posters, and “Emotional expression” ($r = -.294, P < .001$), “Advice” ($r = -.655, P < .001$), and “Insight/Universality” ($r = -.495, P < .001$) were negatively correlated with the anxiety sub-scale for lurkers. Conclusion: We found that both posters and lurkers could gain a certain amount of peer support through online communities. It is also believed that participation in online communities—even as a lurker—is beneficial to participants’ health.

③ 研究報告

- a. 「がん相談者の質問・疑問からの情報づくり：診療ガイドラインの情報との比較から」
平成22年10月30日 第48回日本癌治療学会学術集会 於：国立京都国際会館
- b. 「乳がん患者のインターネット利用がソーシャルサポートに与える影響」
平成23年2月28日 第9回医療経済研究会 於：医療科学研究所

④ 研究会参加

- a. 医療経済研究会 (平成22年9月27日, 10月25日, 11月29日, 平成23年1月31日, 2月28日, 3月28日)
医療科学研究所
- b. 第30回 日本看護科学学会学術集会 (平成22年12月3-4日)
日本看護科学学会
- c. 「働くがん患者と家族に向けた包括的就業支援システムの構築に関する研究」勉強会 (平成22年8月28~30日)
三菱UFJ国際財団 於：IPC生産性国際交流センター

(4) 清水沙友里研究員 研究成果概要

① 研究計画と成果の概要

- a. 「DPCデータを用いた、循環器疾患・糖尿病・がんにおける精神疾患併発に関する分析」
計画概要：身体疾患患者は、精神疾患を併発するリスクが高いことが知られている。循環

器疾患、糖尿病、がんにおいては、気分障害等の精神疾患の有病率が高く、一般人口と比較し自殺率も高い。また精神疾患を併発した場合、予後の悪化、医療費の増加、その他合併症の併発率と経過の悪化などが報告されている。しかしながら我が国において、身体疾患と精神疾患の関連に関する系統的な研究は行われていない。本研究は、一般急性期病床を対象としているDPCデータを用いて、循環器疾患、糖尿病、がんを対象とし、精神疾患を併発する患者に対する、主傷病の予後、精神疾患に対する投薬・治療の状況や、その他併存症・後発症に対するアウトカムの実態を明らかにすることを目的とする。

成果概要：本年度は研究初年度として、まずDPCデータベース構築とその後の解析に必要な向精神薬のマスタの作成を行った。マスタは、各種ガイドラインや臨床的観点から医薬品を抽出し、加えて専門家と協議の上決定した。初年度は、精神疾患との関連が明らかである循環器疾患を対象に分析を行った。本邦において、循環器疾患と精神疾患に関する系統的な研究は行われておらず、精神疾患を併発している場合にどのような医療資源の消費が行われているかは不明であった。本研究を通じ、循環器疾患にうつ病を併発している場合、在院日数の長期化や医療費の増大が起こっていることが明らかとなった。また、循環器疾患患者に対する抗うつ薬処方割合は、先行研究からの予測よりも下回り、抑うつ状態にある患者に対し、十分な薬物療法が行われていない可能性を示した。

b. 「統合失調症患者の受療動向と、抗精神薬の投薬、副作用の発現状況に関する分析」

計画概要：長期入院をしている統合失調症患者が高齢化を迎え、身体合併症を併発する割合が高まっている。これら患者の身体疾患の治療をどこで行うか、また現在どのような治療が行われているかは不明であり、適切な医療が確保できていない可能性が高い。本研究は、以下の観点より分析を行う。

1. 統合失調症患者の受療状況を明らかにし、GISを用いて、精神科医療圏を含めた医療提供体制に関する検討を行うことを目的とする
2. DPCデータを用いて、抗精神薬の投薬状況、副作用の発現状況を分析する

成果概要：抗精神病薬は、心臓突然死のリスクの増加など循環器系に強い影響があることが知られている。そのため本研究では、統合失調症患者における抗精神病薬の処方と身体疾患の発現状況の関連に関する分析を行う予定であった。しかしデータ分析を行ったところ、身体科における抗精神病薬処方の大半が、統合失調症患者に対するものではなく、せん妄治療に対する処方である可能性が示された。抗精神病薬の処方から病態を推測し、統合失調症であると断定することは不可能であるため、本年度は分析対象をせん妄として、その向精神薬の処方状況を分析することを目的とした。分析の結果、せん妄を併存した症例では、緊急入院が多く、比較的重症度が高く、死亡退院割合が高く、在院日数も長期化している傾向が見られた。また、せん妄の治療指針は存在しているものの、周知が徹底しているとは言いがたく、ベンゾジアゼピン系を含む多種の向精神薬が処方されていることが明らかとなった。

② 研究報告

a. 「DPC調査データを用いた、循環器疾患入院患者の精神疾患併発に関する分析」

平成22年10月16日 第48回日本医療・病院管理学会学術総会 於：広島国際会議場

b. 「DPCデータを用いた、循環器疾患入院患者の向精神薬処方に関する分析」

平成23年1月31日 第8回医療経済研究会 於：医療科学研究所

③ 研究会参加

a. 医療経済研究会 (平成 22 年 9 月 27 日, 10 月 25 日, 11 月 29 日, 平成 23 年 1 月 31 日, 2 月 28 日, 3 月 28 日)

医療科学研究所

b. 第 2 回精神科医療政策研究会 (平成 22 年 8 月 5 日)

国立精神神経医療研究センター

c. 医療科学研究所 第 20 回シンポジウム (平成 22 年 10 月 22 日)

医療科学研究所

d. 循環器疾患患者への精神的支援に関する研修モデルの開発研究会

(平成 22 年 11 月 6 日)

国立循環器病研究センター、国立精神神経医療研究センター

4) Home coming

8 月 20 日に開催した。4 名の研究員が平成 22 年度研究計画の中間報告を行った。森理事長、高岡専務理事、嶋口研究所長、西監事、姉川評議員、池田評議員、橋本評議員および研究員 OB, OG が参加し、研究員の研究の方向性などについてアドバイスをした。

公益事業2（公2）：医療科学の研究成果を社会に還元する事業

第22期編集委員会

日時：平成22年12月17日（金） 10:00～12:00

場所：医療科学研究所会議室

経過と結果：

1. 公益財団法人移行に伴い、互選により南部鶴彦理事を委員長に、橋本英樹評議員を副委員長に選任し、委員会を開催した。
2. 平成23年度の『医療と社会』の刊行計画及び巻頭言執筆者を選任した。
3. 平成24年度特集テーマを「日本の医療・介護の公平性」（仮題）とし、編者として小塩隆士（一橋大学経済研究所教授）を選任した。
4. 平成23年度シンポジウムテーマを「医療・介護の連携と機能分担：診療報酬・介護報酬の同時改定は何を目指すべきか」とし、遠藤久夫評議員を座長に選任した。

4. 機関誌『医療と社会』刊行（編集委員会） 定款第4条第7号

1) Vol. 20, No. 3 平成22年10月刊行

(1) 巻頭言

「哲学を語ろう：医療改革を前に」

矢作恒雄理事

(2) 財団研究論文

「患者調査データとDPCデータを用いた入院患者の病院選択行動に影響を与える要因に関する研究」

東京医科歯科大学教授 伏見清秀

(3) 研究ノート(3本)

「医薬品産業における研究開発に適合的な組織行動とHMR」

「実地修練（インターン）制度に関する研究—新医師臨床研修制度に与える示唆」

「英国ブレア政権における医療専門職規制の『近代化』」

2) Vol. 20, No. 4 平成23年1月刊行

(1) 巻頭言

「沖縄振興と日本の安全保障—医療とグランド・デザイン」

姉川知史評議員

(2) シンポジウム講演録 「医療組織のマネジメント」 次項シンポジウム参照。

(3) 研究ノート(1本)

「蝕法精神障がい者に対する看護師の態度の構成要件に関する質的研究」

5. シンポジウム（編集委員会） 定款第4条第8号

テーマ「医療組織のマネジメント」

日時：平成22年10月22日（金） 午後1時30分～5時30分

場所：丸ビルホール

後援：厚生労働省

座長・シンポジスト

座長：石井淳蔵（流通科学大学学長）

シンポジスト：川上智子（関西大学教授）

筒泉正春（社会医療法人愛仁会理事長）

猶本良夫（川崎医科大学総合外科学教授）

正木義博（済生会横浜市東部病院院長補佐）

プログラム	司会進行	高岡庸児専務理事
13:30～13:40	開会挨拶	森 亘理事長
13:40～13:50	来賓挨拶	福本浩樹 厚生労働省医政局経済課長 (代理：高山 研)
13:50～14:20	座長挨拶	
14:20～15:40	シンポジスト発表	
15:40～16:05	休 憩	
16:05～17:15	総合討論	
17:15～17:25	座長まとめ	
17:25～17:30	閉会挨拶	嶋口充輝研究所長
参加者数		
187名		

6. 書籍刊行（編集委員会） 定款第4条第7号

1) 『医療経済学講義』

(1) 編集・執筆

橋本英樹評議員

泉田信行（国立社会保障・人口問題研究所社会保障応用分析研究部第1室長）

(2) 執筆者

井伊雅子（一橋大学国際・公共政策大学院教授）

池田俊也（国際医療福祉大学薬学部教授）

小塩隆士（一橋大学経済研究所教授）

菊池 潤（国立社会保障・人口問題研究所社会保障応用分析研究部研究員）

後藤 励（甲南大学経済学部准教授）

齋藤裕美（千葉大学法経学部准教授）

中泉真樹（國學院大学経済学部教授）

中山徳良（名古屋市立大学大学院経済学研究科教授）

野口晴子（国立社会保障・人口問題研究所社会保障基礎理論研究部第2室長）

山田篤裕（慶應義塾大学経済学部准教授）

湯田道生（中京大学経済学部准教授）

(3) 刊行予定 平成23年8月に東京大学出版会から発刊予定

(4) 価格 3200円

公益事業3（公3）：医療科学を自主的に推進する事業

7. 自主研究（自主研究委員会） 定款第4条第10号

1) 第1回自主研究委員会

日時：平成22年12月14日（火） 10:00～12:00

場所：医療科学研究所会議室

運営規程により、互選により橋本英樹評議員を委員長に、近藤克則理事を副委員長に選出し、委員会を開催した。

(1) 審議事項：

①平成23年度自主研究（財団研究）テーマの探索・選択

委員会の役割について、再度検討を行うことになった。研究の概要については、時間枠2年、予算枠500～1000万円/年であることが確認され、医療経済等の研究を推進するような総説やコンセプト・理論的ブレークスルーを提示するような学術研究、2次的データを用いた実証研究、もしくは政策提言を行う研究を行うことで合意が得られた。

②平成23年度医療経済研究会の発表者選任

③自主研究費の使途の明文化

(2) 経過及び結果

第1回の自主研究委員会では、委員会の役割が不明瞭であるとの事から、改めて委員会の役割について、自主研究委員会の役割、目的を明確にしたうえで、テーマの選定等に進むことにした。

2) 平成22年度自主研究テーマ進捗 定款第4条第10号

平成21年度からの継続テーマは(1)、(2)の2テーマで、平成22年度の新規テーマは(3)、(4)2テーマであり、研究成果は平成23年度の医療経済研究会に発表し、『医療と社会』に掲載する。

(1) 「医療技術評価(Health Technology Assessment, HTA)の政策立案への活用可能性と課題に関する研究」

代表者：池田俊也評議員 (開始：平成21年4月1日)

※平成24年2月27日医療経済研究会にて発表予定

(2) 「医薬品流通制度と医薬品卸の役割」

代表者：三村優美子評議員 (開始：平成21年4月1日)

※平成23年10月31日医療経済研究会にて発表予定

(3) 「ヘルスケアにおける連携に関する研究」

代表者：中村 洋評議員 (開始：平成22年4月1日)

(4) 「精神科地域医療におけるアウトリーチケア提供の新しいモデル構築に関する研究」

代表者：萱間真美（聖路加看護大学精神看護学教授）

(開始：平成22年4月1日)

※平成23年11月28日医療経済研究会にて発表予定